

# 探

「恵まれた自然のなか、  
いろんなことに興味をもって。」



## 児玉 伊智郎さん

厚狭高等学校教諭

生物の教師として教壇に立つ傍ら、生物部顧問を務める。部が取り組んだ研究が数々の賞を受賞するほか、生徒への指導が教育の発展に大きく貢献したとして「第56回読売教育賞」最優秀賞（理科教育部門）を受賞するなど、その指導方法も高い評価を得ている。

「最近めだかを見かけないね」という部員の何気ない一言からでした。」厚狭高等学校生物部が研究の題材としてめだかを取り上げることとなったきっかけを、顧問を務める児玉伊智郎先生は語ります。以来12年、その生態や体のしくみ、行動などについてまとめた研究の数々が科学部門の全国大会で入賞するなど、“めだかの厚狭高”としてその名を広く知られるようになりました。

「自然界にはまだまだわかっていないことが多く、研究には非常に多くの時間を要しますね。」生物学という分野の特性について、児玉先生はそう語ります。入賞した研究をはじめ、これまでまとめあげた論文の数々は、日々の実験や観察、期待した結果が出なくても決して諦めないという、部員たちの努力の結晶でした。「研究を進める過程でわからないことがあれば専門書で調べたり、先輩が後輩を指導したりしています。放課後はもちろんのこと、休みの日も登校して研究に励む部員の熱心さには頭が下がります。」と、生物部の活動のようすを話す児玉先生ですが、部員だけではどうしても解決できない状況に直面した時には、その手がかりを示したり、参考となる資料を紹介するなど、児玉先生の存在こそが生徒にとって大きな支えとなってきたことには違いありません。

「時間をかけて追究してきた謎が解けた瞬間には、生徒と一緒に“そうだったのかあ！”という何とも言えない感動を味わっています。恵まれた自然環境のなか、生徒にはこれからもいろんなことに興味をもって取り組んで欲しいですね。」まだまだ未知の部分がたくさん残る生物の世界を前に、児玉先生と生物部員の研究の日々は続きます。

## 生物学っておもしろい～生徒とを感じる自然の不思議～

### 厚狭高等学校 生物部

厚狭高等学校生物部は、これまで科学部門の全国大会で数々の賞を受賞するほか、スウェーデンで開催された国際コンテスト（平成15年）やアメリカで開催された国際学生科学フェア（平成18年）に出席、研究成果を発表するなど、活躍の場を世界へと広げつつあります。部長を務める河本雄貴さん（2年生）は「結果が伴わなかったとしても、研究していく過程のなかで、新たな課題が見えてきて、調べてみたいテーマが次々にひらめきます。」と生物学の魅力を語ります。児玉先生の指導のもと、厚狭高等学校生物部は、今後も自然の不思議を次々と解明していくことでしょう。



▲小さなめだかを通して、いろいろなことが見えてきます。  
（右から2人目が児玉先生）